

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600082	事業の開始年月日	平成19年8月1日	
		指定年月日	平成19年8月1日	
法人名	株式会社 エイジサービス			
事業所名	グループホーム いずみ別荘			
所在地	(245-0017) 神奈川県横浜市泉区下飯田町811-4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果 市町村受理日	令和3年8月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>最寄駅（市営地下鉄ブルーライン）下飯田駅から徒歩2、3分という交通アクセスに恵まれた立地条件です。少しずつ施設周辺が住宅地へと変わりゆく中、泉区の自然がまだ多く残っている環境です。散歩をしながら見える季節折々の富士山を楽しむことも出来ます。芝生の庭では季節の花々に囲まれながら外気浴を楽しみ、また、ホーム菜園では季節の野菜を育てて、成長を観察、収穫を喜び、そして味わい、入居者様から大変好評を得ています。「入居者様ご本人のペースを大切にそっと寄り添い、自立を支援します。」「個々を認め、ゆとりある生活と安定した援助を目指します。」というホーム理念のもと、日々のケアに取り組んでおります。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年12月15日	評価機関 評価決定日	令和3年4月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、横浜市営地下鉄線「下飯田」駅から徒歩約2分、あるいは相鉄いずみの線「ゆめが丘」駅下車徒歩約9分で、交通至便の環境に立地しています。周囲には畑も多くまた、買い物に便利なコンビニエンスストアもあります。

<優れている点>

事業所の理念に「入居者様ご本人のペースを大切にそっと寄り添い自立を支援します」とあるように利用者一人ひとり、わが家で暮しているような自然体の生活があります。事業所には広い芝生の庭があり富士山も見えます。庭で季節の花を育て、一隅の畑ではキュウリやトマト、ナスなどを栽培しています。夏にはたくさんの収穫があり、新鮮な野菜が食卓に上ります。日々の暮らしの中で入居者は、掃除や食事の準備、洗濯などできることを行っています。また、利用者と家族の希望や思いに寄り添って、利用者にとって自分が思うような最期を迎えられるよう、看取り介護に力を入れています。

<工夫点>

現在はコロナ禍であり、思うような生活が出来ない状況もありますが、職員は、感染防止策を実行しながら、入居者が今までと同じように楽しく生活できるように話し合いを重ねています。これまで大切にしてきた楽しみ事の支援に努め、近くの駅に建設中のショッピングモールの完成を楽しみにし「出来たら皆で買い物に行こう」と言いながら「歩けるように足を鍛えなくてはね」などと話しながら筋力アップの体操など、楽しみにしながら行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム いずみ別荘
ユニット名	1F つる

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	年度初めには、理念を確認する機会を作り、実践しています。	10年前、ホーム長が全職員にアンケートをして思いを集約し、検討して作っています。玄関、事務所、更衣室など、目につきやすい場所に掲示し、年度初めの内部研修で読み合わせを行い、意識付けしています。支援で困った時は、職員で話し合い、理念に沿って対応しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在、コロナ禍であるため、交流はしていません。	コロナ禍以前は、加入している自治会の秋祭りや敬老会に参加したり、ハロウィンでは来所した子供たちに菓子を配っています。隣接する生活介護事業所と開催する合同夏祭りには、来所した地域住民を模擬店で持成し、事業所について理解してもらうように努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、コロナ禍であるため地域貢献等は、時節柄難しく、行えていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、コロナ禍であるため、運営推進会議も中止している状況です。	自治会長、地域包括支援センター職員、区役所職員、家族、隣接の生活介護事業所職員が参加し年6回開催しています。自治会長から地域の独居高齢者が心配との相談が出て、行政の支援につながった事例もあります。12月に書面の送受信で意見交換をして再開する予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいます。	時節柄、行政とは、施設としての対応や方針等、適宜確認をしたり、コロナ禍のため大切に取り組んでいます。	運営推進会議に地域包括支援センター職員、区高齢支援課職員が参加し連携しています。行政主催の研修にはコロナ禍で参加できませんが、例年は多職種連携のための事例検討会や介護スキル、コミュニケーションスキル、感染症対応などに参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は立地の関係上、常時施錠していますが、入居契約時には必ず説明を行い、ご理解頂いています。またその他、身体拘束等を行わない支援を心掛け、意識してケアにあたっています。	年1回「身体拘束・虐待について」の内部研修を行っています。市の「自己点検シート」を全職員が行って話し合い、理解を深めます。管理者が職員の不適切な支援に気づいたときは、問題点を職員と話し合い納得の上で改善しています。職員同士も気づいたときは互いに注意し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年1回「虐待防止」の学習をする機会を持ち、施設内での虐待が無いように努力し、虐待無し宣言を掲げ支援しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要な際には制度の活用を支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	会社からも、施設からも、安心して頂けるような説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者やご家族からのご要望やご意見は施設で反映できるものは対応させて頂いています。職員からの意見等はホーム長、ケアマネより会社へ繋いでいます。	今年はコロナ禍で自粛しましたが、例年は敬老会の後に家族会を開催しています。メールで連絡を取りたいとの要望があり対応したり、日々の生活の様子が知りたいとの要望から、利用者の生活の様子や写真を載せた「入居者だより」を毎月家族に送付し喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	今年度はユニット会議を開催することが減ってしまい、通常ではそのユニット会議において職員からの意見や提案等を取り入れ、会社へ繋いでいます。	月1回のユニット会議や日ごろの会話、申し送りノートで職員の意見を聞いています。職員から、コロナ禍の対応で食事と休憩時間の確保がしづらいつとの意見があり、職員ごとに時間をずらして確保して対応しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	直接職員から意見を会社へ繋げたり、勤務への改善を伝えられています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員全ての力量の把握は難しいと思いますが、努力してくれていると思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年度は、同業者との交流はあまりありません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に、情報として各職員へ周知できるよう発信し、ご本人の安心を見つけ、関係づくりに努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前に、必要であれば何度でもご本人、ご家族様と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入所にあたっては、施設サービスのみの提供ではありますが、例えば当施設の利用が難しいと思われる方へは、ケアマネ、若しくは会社から説明して頂き、他サービスへ繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日、ご入所者様と職員とで楽しい時間を過ごさせて頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍ではありますが、少しでもご本人とご家族様との関係も継続して築いて頂けるように手紙や電話等を利用して支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍のため、現在は出来ていません。	入居時の面接で馴染みに関する情報を把握しています。入浴や散歩の途中、眠れない夜間に職員に思い出話をする利用者もいます。コロナ禍で自粛していますが個別レクリエーションで思い出の場所への外出を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士、関係や関わり合いの中で、孤立を無くし支え合っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても必要に応じ支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや意向の把握に答えられるよう努めています。	入居時のアセスメントで本人、家族から思いを聞き取っています。日ごろの生活や入浴の時、散歩中、ドライブの時の雑談、夜間に職員と話す中でも把握しています。把握した思いは、職員間で共有し、理念の「本人のペースを大切に」する支援に活かします。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活や、暮らし、サービス利用等把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人、一日を通して、しっかりと見つけ、その方に合った支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月実施しているユニット会議において、職員の意見や提案を取り入れ、また入居者様の状態の確認等、多方面からの見方をケアプランに活かしています。	入居時に本人・家族とヒアリングし、暫定版介護計画を作成しています。入居後1ヶ月で主治医や看護師、介護職など多職種で意見を出し合い、本人、家族の要望を聞き介護計画を作成しています。3ヶ月ごとにモニタリングし、6ヶ月ごとに見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や変化、気づき等は、個別記録や申し送りノートへ記入し、職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人に必要であると思われるサービスは、前向きに取り入れています。既存サービスに捉われずに判断するよう、努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在は、コロナ禍のため、地域資源との協働は難しいです。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご入所時にかかりつけ医の確認をしながら、安心して受診ができるように支援しています。	事業所の協力医の他、本人の希望を大切に、以前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう支援し、複数の医療機関と関係を密に結んでいます。家族と連携し通院時の本人の外出準備やホームでのバイタル、服薬中の薬情報などを提供し、通院支援を行なっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃、気付いた事や情報は、訪問看護師に伝え相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居様を良く理解している、ホーム長、ケアマネが主に対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設医をはじめ、医療との連携を大切に、その方の状態に合わせ、ご家族と共に職員も説明を受け、ご本人、施設、家族とで支えています。	入居時に重度化した場合や終末期について話し合いを行い、事業所として出来ること、出来ないことを説明し、同意を得ています。実際に重度化した場合は、主治医より説明し、本人や家族の思いに寄り添いながら、訪問看護師や主治医との連携を密にして対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修では取り入れていますが、今年度は行えておらず、定期的な訓練は行えていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	訓練を行ったり、ミーティングで取り上げる等して、日頃身につけるようしています。	年に1回は、消防署の指導の下、夜間想定避難訓練を行っています。また、隣接する施設の協力を得て、日中想定避難訓練も実施し、消防署に報告して助言をもらっています。職員の夜間緊急連絡網を整備し、避難誘導や見守りなど各々の役割分担もきちっと決めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	気を付けて対応しています。	職員は人格の尊重やプライバシーに関する研修に参加し、入居者の尊厳や誇りを損ねないように、また、プライバシーを守るよう努めています。「さん」づけを基本として、常に人生の先輩として親しさの中にも敬意を持った対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の思いを聴くように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースを、大切に出来るように気を付けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	職員は、ご本人の好みを大切に心掛けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	コロナ禍のため、現在は出来ていません。	メニューは利用者の意向を尊重し決めていません。土用の丑の日にはウナギが食べたいとの声でうな井になり、夏はホームの畑で栽培したキュウリやナスなどが食卓を飾っています。誕生日会ではその人の好きなものを作っています。ハンバーグや餃子を一緒に作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの介助をしています。また、週1回のペースで訪問歯科を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人の排泄パターンを見つけ、誘導し、失敗を減らせるように支援しています。	一人ひとりの排泄チェック表を活用して排泄パターンを検討し、排泄の自立支援を目指しています。タイムリーな声掛けや立位の工夫もしています。立位が難しい人も、トイレでの排泄を大切にして2名介助も行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々のケースに応じた予防支援に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日の入居者様の状況に合わせて、支援しています。	入浴は午後の時間帯ですが、一人ひとり、今までの生活習慣を可能な限り尊重しています。ゆったりとした気持ちに成ってもらえる入浴を心掛けています。季節のしょうぶ湯やゆず湯も楽しんでいます。重度化した際は、シャワー浴をして清潔を保持しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休息への声掛け等、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は誤薬等無いように、何度も確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	楽しく過ごして頂けるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良い日には、散歩等支援しています。	散歩や日常雑貨などの買い物に行っています。家族と馴染みの美容院や墓参りに行く人もいます。初詣・花見など、車イスの利用者も一緒に参加して楽しんでいます。天候の良い日は外に出るようにして、庭の野菜の世話や花への水やりをしたりしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設では個別の金銭管理を受けていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族との連絡は主に職員が介入し、電話等取り次いでいます。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花等をリビングに飾り、居心地の良い空間作りをしています。	リビングの大きな窓から明るい陽射しが入り、和室のソファに寝転んで居眠りをしたり、外のウッドデッキに出て、湯茶を楽しんだり、外気浴をしたり、庭の作物の収穫も楽しむなど、自由に過ごしています。廊下も広く車いすでも自由に動けます。コロナ対策で、換気・消毒と共に、加湿機能付き空気清浄機を設置しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った入居者様同士、お互いに居室に伺ったりしてお過ごし頂いています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食後は居室でゆっくりされています。テレビを観たい方はご自分の居室でテレビを観たりもされています。	居室は陽が良く入り明るく、利用者は使い慣れた小さな鏡台やタンスを置き家族の写真などを飾り、自分好みのレイアウトにして過ごしています。居室担当職員が清掃やクローゼット内の整理、衣類管理などを支援し、室内は清潔に保たれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	女性の入居者様で出来る事の支援として、食器拭き等を中心に行って頂いています。			

事業所名	グループホーム いずみ別荘
ユニット名	2 F かめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	年度初めには、内部研修で理念の読み合わせを行っています。出入りが多い、事務所、更衣室、トイレ、目の付きやすい場所に理念を貼り出し、各自いつでも確認がとりやすいように工夫しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在、コロナ禍で交流等が出来ない状態です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所の地域貢献の場にまだ関わったことがないので分かりませんが、現在はコロナ禍のため、交流が出来ていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、コロナ禍であるため、運営推進会議は中止されています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主にケアマネが市町村と連絡を取り合い、関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	実施前に職員間で話をし、相談の上、支援一つが身体拘束にならないよう注意を払っています。玄関施錠は目の前が道路に面しているため施錠していません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入浴支援時には、身体チェックを徹底しています。又『高齢者虐待防止』については、毎年内部研修で職員同士確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ご本人にとって、またご家族からの依頼時等、制度が必要であると思われる場合には、適切に活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	会社からの説明も含めて、施設で説明できる部分はいつでもご説明させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からの要望は会社に確認を取り、出来る事は速やかに対応しています。ご本人からの要望もご家族様へ確認し施設対応が出来る内容であれば速やかに対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	現在、ユニット会議が開催出来ていないのですが、通常ならば、毎月ユニット会議があり職員の意見、提案等を聞き反映されています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人一人の思いや考えを聞き、働きやすい環境作りをしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	通常、毎月内部研修を実施しています。その時に必要な研修内容等を組み込んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	交換研修で他施設で同業者と交流する機会があります。今年度は交換研修は中止となっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人が安心して、楽しく生活が送れるように安全面にも考慮し、ご本人が心配なことがあるか、何がしたいのかを伺い、把握した上で職員同士で繋ぎケアに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	安心、安全かつ楽しく生活できるようにご家族様ともしっかり連絡を取らせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様、ご本人の話に耳を傾けご家族様とご本人が何を必要とされているか等を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として尊敬の念を忘れず接しています。又、相手が何を必要とし何を望んでいるか等の把握に努め、楽しく生活できるように関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様とご本人の関わりが持てるよう家族会の開催を実施したり、ご本人にとって良いと思える支援をご家族様と相談、実施しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日常会話の中で昔住んでいた場所や人、友人の話をして頂き、ご本人記憶から途切れないよう努めています。昔行った場所等行ける場所へ無理のない範囲で個別レク等で行くようにしています。(現在はコロナで行えていません)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人の感情の変化を敏感にキャッチし相性の合う利用者様同士に席替えをしたりレクリエーションで友好を深め合うようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、ご家族からの相談や支援等に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で会話が少ない方にはレクリエーションの中で、発語を促すようにしています。意思疎通が難しい方には職員が傍についてフォローしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の生活の中で体験や思い出を話して頂き、生活歴を把握し、より楽しく暮らせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の生活のリズムを把握し出来る事の継続、出来ないことは支援しつつ、メリハリのある生活に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のユニット会議で職員同士意見を交換し、ご本人が心地よく生活するためにケアの見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に日々の様子を記録し、気付いた事やケアの工夫を職員同士共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎等を行っています。コロナ禍で面会、外出自粛のため、ご家族と電話での会話を楽しんで頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍のため、訪問理美容のサービスや近隣の子育てサークル、地域の子供達との交流等も中止していますが、入居者様には、室内で安全に楽しめるような行事を工夫しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回の集団往診、個別往診を行っています。歯科、眼科等の医療機関との関係性も密に結んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	変化に気付いた時は、他職員とも相談してから、看護師に報告し、対応をして頂けるように取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時の対応は、ケアマネを窓口としています。医療機関との情報交換をしながら、早期に退院できるように、また施設でも安全安心に受入が出来るように指導を頂きながら、医療機関との関係を築いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	その時、その方に必要な内容、情報を必要時には職員へ発信し、共有しています。毎月のユニット会議等で話し合いながら、段階に合わせたケアを支援しています。必要時には医療、ご家族、施設とで話し合う時間を作っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修等で訓練を受けたことはありますが、まだ実践したことは少ないため、訓練を定期的に行い身につけて自信に繋げていきたいです。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	今年はコロナ禍のため、消防署等、外部からの協力を得ての避難訓練は実施出来ませんでした。施設のみで実施しました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の人柄に合わせた言葉掛け、対応等を変えています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人が自己決定出来るような声掛けを心掛け、対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合で、時間に追われていても出来るだけその人のペースを大切にするよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来るだけ、その日の気温に合った服装をして頂くよう声掛けを行い、その人に合った色合いの服を選ぶようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きや食器洗い、食器拭き等の出来ることの声掛けを行い、家事に参加する機会を作れるように心掛けています。メニューをお教えし楽しみして頂けるような対応もしています。また洗濯物たたみは、ほぼ全員で行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量を記録し、職員同士情報を共有しています。苦手な物は形状を変えたり、容器を変えて提供したりして、栄養バランスも考えて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを継続しています。一人一人の力に応じて支援しています。訪問歯科で週1回口腔清掃を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄のパターンに沿って支援を行っています。定時誘導や必要に応じた昼、夜パットを変えながら使用し、排泄の失敗を無くす努力をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	こまめに水分提供を行い、医療と連携をとり、排便コントロールをしています。自然なお通じのために散歩や体操等も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	無理強いせずご本人の体調や様子を見て入浴を楽しめるように支援しています。入浴表に記録し偏りなく清潔保持に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転など一人一人の状態に合わせて夜勤者が対応し、安心して気持ちよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服確認は誤薬の無いように行っています。症状の変化に合わせて下剤の服用を一時止めたり、ご本人の身体に負担がかからないように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の生活歴から出来ることをやっています。レクリエーション等で得意なことを披露して頂き、意欲を高める支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	歩行ペースに合わせて、一人二人組で散歩に行ったり、庭で外気浴を楽しんだり支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭はご家族様が管理しています。施設では個人の金銭借りは行っていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎月のご家族様へ日頃の様子等を記したお便りを送っています。ご家族様とご本人が直接電話や手紙でやり取りする時もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	拒否がみられる場合は、職員や環境、状況等を変える工夫をしています。リビングは壁画等で季節感を感じて頂けるように工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	施設の庭、デッキでゆっくり座って話が出来る環境があります。又、室内でも和室に置かれたソファに座り話せる環境があります。居室で一人で過ごせる自由もあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が必要としている物を伺った場合には、本当に必要かどうかを職員同士で話し合い、ご家族へ繋げ、持ってきて頂き、またはご本人と買い物に出掛けたりしています。居室については、ご本人、ご家族、施設と一緒に考えて、気持ちよく使って頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の現状、状態に合わせて、その都度、職員で話し合い、安全のための環境整備を行い、利用者様の自立支援に繋がっています。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 ゴルフホーム いずみ別荘

作成日: 令和3年4月7日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	昨年より継続して、運営推進会議を書面で開催しているが、参加者が少く参加者を幅広く募る必要がある	ゴルフホーム いずみ別荘を多方面の方に広く知って頂き理解してもらう	近隣施設や町内会、ボランティア団体等にオンラインやSNSを使い運営推進会議への参加と理解を深める	12ヶ月
2		緊急災害時の対応を更に見直す	近年の風水害や大規模地震を想定した、訓練をおこなう	地域の中へ施設として、地震や風水害を想定し、地域連携を意識した訓練を実施する	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月